

第20回「緑の少年団全国大会」

京のゆめ緑といっしょにひろげよう

緑の奨励賞を受賞した各少年団の代表



励ましの言葉を述べる島田林野庁長官



開会の挨拶をする山田京都府知事

「第二〇回緑の少年団全国大会」が七月二十九日から三十一日までの三日間にわたって、京都府京都市等で開催されました。初日の記念式典は、全国から集まった緑の少年団の入場行進で始まり、大会会長である山田啓三京都府知事の主催者挨拶、島田泰助林野庁長官による励ましの言葉などに続いて、「みどりの奨励賞」の表彰や活動発表が行われました。二日目には一〇班に分かれての自然体験活動が行われ、最終日にはそれぞれの体験活動が発表されました。

緑

の少年団全国大会初日の記念式典では、主催者である山田啓三京都府知事が天橋立におけるマツクイムシ被害への対処などを例に挙げながら、「なぜ私たちはこうして一生懸命に自然を守るのでしょうか」と子どもたちに問いかけ「森は美しい空気をいっぱい出してくれます。水をきれいにしてくれます。私たちが森を守れば、今度は森が私たちを守ってくれます。皆さんの未来を守ってくれます」と説明し、「三日間の活動の中で、そうした自然のすばらしさ

や良さを十分に味わってください」と参加した緑の少年団に対し期待の言葉を述べました。続いて島田泰助林野庁長官が「森の元気を取り戻すための協力は、いろいろな形で出来ると思います。少年団の皆さん達のように山に行つて木を植えてもらったり、森の手入れをしていただいたり、また、木の製品を使ってもらうことでも森の元気をサポートすることが出来ます。皆さんも森林を守るために頑張ってください」と励ましの言葉を贈りました。

大会二日目は自然体験活動を

二日目に行われた自然体験活動では、参加した少年団の子どもたちが一〇班・府内四ヵ所に分かれ、「人と自然の関わり」「原生林と人・野生生物のつながり」「伝説と歴史と自然の恵みにふれあう」をテーマとした体験活動に参加しました。宇治茶の本場でのお茶文化の体験や柿渋染体験、約六〇〇年の歴史を持つと言われる北山林業での磨き丸太作りや木工体験、西日本屈指のブナ原生林である由良川源流域の散策、日本三景「天橋立」、鬼伝説の大江山などの自然や歴史・伝統文化を学ぶなど、緑の少年団同士が楽しみながら交流出来



北山林業地の台スギ前



北山スギの伐採



磨き丸太の皮むき体験



次回開催予定の青森県に大会旗が引き継がれました

る様々なプログラムが行われ、最終日にはそれぞれの体験活動が発表されました。

なお、来年の「第二一回緑の少年団全国大会」は青森県内で開催予定です。

平成二年度みどりの奨励賞受賞者

平成二年度のみどりの奨励賞を受賞した少年団と活動の概要は以下の通りです。

茨城県坂東市七郷小学校緑の少年団

自然にふれあひながら緑の大切さを知り、緑を増やす活動を通して豊かな心を育成することを目的として活動しています。シード（種）とドロ（泥）で作った泥人形を土に埋

める「シードロ作り」活動や、野鳥観察、樹木調べなどのほか、米づくりやシイタケづくりにも挑戦しています。

群馬県南雲小緑の少年団・県の

天然記念物に指定されているヒメギフチョウの保護を目的として「ふもとまでヒメギフチョウがたくさん舞う南雲の里」づくりを行っており、ヒメギフチョウの生息地や食草、幼虫などの観察や研究発表を実施しています。

愛知県六所山みどりの少年団・身

近にあるササユリや野鳥を保護する活動を地域と協力して取り組むことを通じ、郷土の自然を守っていくという気持ちを育てることを目的としています。ササユリの観察や分布マッ

プ作りなどの保護活動を行う一方、植樹活動にも取り組んでいます。

京都府ガールスカウト福知山緑の少年団

自然の恵みを知り、自然環境を守る心を育てることを通じて、自分自身と他の人の幸福と平和のために自ら考えて行動できる人を育てることを目的として、野外活動や奉仕活動に取り組んでいます。樹木博士や植樹活動、草木染め、つる細工、田植体験などのほか、街頭募金や地元のお祭りにも参加しています。

和歌山県白浜町みどりの少年団

自然に親しみ、自然を愛する心の輪を拡げ、活動や団体生活を通じて団員相互が協力し、明るく豊かな人間性を養うことを目的として活動しています。地域の美化運動や防災活動に取り組みむほか、郷土を愛し、地域づくりを担う人間としての市民性を育てるため、松林復活植樹活動や浜の清掃活動、学校農園での野菜づくりなどにも取り組んでいます。